

令和7年度小平市立小平第六中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

- 思考力・判断力・表現力等における「書くこと」に関わる内容が東京都の平均値を2.8ポイント下回った。
- 知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」が東京都の平均より2.7ポイント高い。

- 思考力・判断力・表現力等における「書くこと」の力をつけるために、自身の表現活動の方法等を評価させる必要がある。
- 知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の力をより伸ばすために、ICT等の活用をする。

学校で取り組む具体的な改善策

今後、批評文に関する授業において、観点を決めて情報を分けたり、観点を定めて自身の考えを表現する活動を行う。その際に自身の考え方や文章の構成を他者と比較しながら書かせることで、「書くこと」に関する力を養う。知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の力をより伸ばすために、学習者用端末を活用した学習活動を通して能力向上を図る。

以上の学習を中心に、言葉に関わる事項や書くことに関する力の向上を目指す。

【数学】

状況の分析

課題

「四分位の各層の割合」を昨年度と比較すると、正答率が第3四分位は75%から73%とほぼ同等なのに対し、第2四分位は56.3%から46.7%、第1四分位は37.5%から26.7%と大きく下回っている。中間層、下位層が上位層とさらに差が開き、2極化の傾向がより強くなったと考えられる。

各コース内で習熟度の差が見られる。習熟度の高いコースでは、生徒の発言で進度が早まり、学習についていけない生徒が出てくる傾向があるので細かい発問で理解を促す必要がある。習熟度の低いコースでは、問題解決に至らない場面があるので、基本となる知識、技能を習得させていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

演習時間を確保し、基礎学力の定着を図り、知識・技能を伸ばすことで授業が分かる・役立つ意識を高め、深い学びに結びつかせる。そのために、単元ごとに総まとめ問題を取り組み、理解度を見取り自主学習課題などの設定を担当教員間で確認していく。

【理科】

状況の分析

知識・技能について、元素を記号で表す問い合わせでは、正答率が全国平均より 3.2 ポイント高かった。一方、知識が概念として身に付いているかどうかをみる問い合わせでは、全国平均より 13.8 ポイント低かった。思考・判断・表現に関する問い合わせでは、全国平均を 0.2~6 ポイントほど下回った。

課題

既存の知識・技能と関連付けたり組み合わせたりしていくことに課題がある。また問題を発見し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくことに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

知識・技能については定期的に小テストを行い、基本事項の定着を図る。また社会の様々な場面で活用できる知識・技能として体系化しながら身に付けさせていく。

思考・判断・表現について、問題に対して解決方法を立案して、生徒自身で解決していくことができるようなテーマを設定する。またタブレット PC を活用しながら多様な考え方の共通点や相違点を理解させ、協力しながら問題を解決させていく。

【質問紙】

状況の分析

- ・読書への関心（「読書は好きですか」に「当てはまる」）が全国平均より 4.6 ポイント高い。継続的に読書活動推進に取り組んでいる成果と言える。
- ・全国平均と比べて、学級での話し合い活動に熱心に取り組む生徒が多い。
- ・ICT 機器の活用に対するポイントが高く、授業改善の柱として利用促進に取り組んだ成果が出ている。

課題

「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足」「幸せな気持ちになる」といった質問事項に対して「当てはまる」生徒のポイントが全国平均よりも低く、日常生活の中で心が満ち足りていない側面があると言える。自己肯定感のポイントもやや低い。

学校で取り組む具体的な改善策

自己肯定感の向上を目指して、自信をもたせる声かけ（励まし・褒め言葉）を増やし、日々の生活の中で達成感を味わえるように活動内容を工夫していく。生徒に役割を与え、活動をさせ、その活動を評価することで、自分の活動が周りに良い影響を与えていたという自己有用感をより感じさせるように計画的に活動を行っていく。

正しく楽しい、生徒の自主的活動の企画運営をより多くできるよう、教員側計画的に意図的に仕掛けていく。